

遅発性Ω

第二章



著者：枝湊菰



■ 柊航(ひいらぎわたる)

年齢：27歳

身長：168cm

体重：53kg

職業：α専用ホテル 従業員

得意分野：バーテンダー、マッサージ師

性質：Ω

※αからΩに性質を変えた特別なΩ



■ 澤田恭平(さわだきょうへい)

年齢：27歳

身長：188cm

体重：72kg

職業：外交官

得意分野：翻訳 愛すること

性質：α



■ 杉本(すぎもと)

年齢：30歳

身長：178cm

体重：63kg

職業：α専用ホテル 従業員

得意分野：気にかけること

性質：α

**■東雲(しのめ)**

年齢：25歳

身長：179cm

体重：60kg

職業：α専用ホテル

従業員(フロント係)

趣味：速水と喋ること

性質：α

**■速水(はやみ)**

年齢：25歳

身長：175cm

体重：60kg

職業：α専用ホテル

従業員(フロント係)

趣味：野球(背番号4番)

性質：α

**■国枝(くにえだ)**

年齢：29歳

身長：183cm

体重：70kg

職業：α専用ホテル役員(責任者)

得意分野：人を動かすこと

性質：α



■華(はな)
年齢：30歳
身長：172cm
体重：57kg
職業：〇専用病院
趣味：花を活けること
性質：〇



■花咲翔太(はなさきしょうた)
年齢：29歳
他不明
職業：暗部特殊部隊長
澤田恭平の上司にあたり外交官としての任務、翻訳の手伝いをさせている。
澤田からはボスと呼ばれている。

【第二章】

α 専用ホテルを拠点に物件探しと役所の手続きをして俺は終航から澤田^{さわだ}

航^{わたる}になった。

名前が変わり実感するとぞわぞわとこみ上げてくる嬉しい気持ち。Ωになった時は暗い未来に怯えて過ごしていたけどこうして【運命の番】と出会い。体に触れ、一緒に連れ添える存在がいることがとても嬉しい。

そして今日は新しい家での初夜だ。片付けや家具の設置などはすでに終わっている。

「どうしたの航？」

お風呂で暖まり大きいサイズのベッドを購入したので二人で眠れる。

「なんか嬉しいなって思ってた」

布団から少し顔を出す。ちゅっと額にキスをしてきた。恭平さんも布団に入り込み俺の上に乗る。

「ちよっんっ」

体格差があり、覆い被さると身動きがとれない。指が乳首に這い、クリクリと撫でまわす。

「んっんんちゅっ」

「あっはあはあ」

乳首を甘噛みしてきた。

「んっ」

されるがままで行為を素直に受け入れる。

「んっあっううっ」

焦らしプレイに身をねじる。

「ふふっ可愛いな、ここはどうかな？」

寝巻のズボンに手が入り俺のを扱う。

「あっあっ」と涎が垂れた。上下に扱われるの気持ちいい。ぐちゅぐちゅと音が響く。

「お：俺も恭平さんの触りたい」

！？ 驚いた様子でこちらを見ている。硬くなった恭平さんのと俺のを一緒に握り上下に扱う。

「うっやばっ」

じゅくじゅくと音を鳴らせながら熱くて硬いのが擦れる。

「あっあっふああ…うっ」

二人同時にイキ、ビクビクと体が跳ねた。

「航、俺もうほしい」

「いいよっ来て」

蕾を大きく開き、そこに挿入した。

「うっにゃ!!」

勢いよく挿入され、前立腺にあたると腰が揺れた。

「ひゃっああああ、ぞくぞくする」

「うっ」

キスを求められ、腰を振りながら涎ごと舐めとられた。

「あつふああ：前立腺擦るの気持ちいい」

「あーもう!! 煽るな」

腰を思いつき引き、性器が蕾にさらに密着した。

「かはっ：やっなにこれ：なんかくる」

ゾクゾクゾクとなにかが来る。

「やっダメ!!!!」

噴水のように潮をふいた。

「うっうっ：」

「え、もしかしてメスイキ？」

「やっダメみちゃ…恥ずかしい」

顔にあてている手をどかし

「航、今頃恥ずかしがっても意味ないぞ、俺は航が好きなところ全部知ってるからな」

奥を何度も何度もぶつけてきた。

「やっもう出ない…出ないから…」

「やばっ俺超気持ちいいんだけど」

「うぐっう…はあはあ」

俺の中で乱れている恭平さんを感じ、苦しいけどでも、恭平さんが喜んでるの嬉しい。

手を伸ばし首にまわす、そのまま騎乗位の体勢で背中が仰け反るほどに二人で気持ちよくなった。

「はあはあ…布団洗濯しないかね」

「うん、はあはあ」

もう夜中の二時をまわっている。今日がラストの休みなので、ゆっくり休むことにしている。

一週間の休みはあつという間に終わった。

でも、恭平さんとずっと一緒にいれて、メスイキも体験してしまい、もう大満足だ。

それに左薬指を見る、指輪を見てうっとりとしてしまう。

続きは本編にて！！